

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Spring 2024

Dogushi

洞串 -どぐし-

Vol.45

特集

好奇心のタネがいっぱい

人形劇のまち飯田2024年度イベントカレンダー



Chiyoko

好奇心のタネがいっぱい

人形劇公演、人形劇講座、人形美術館情報、季刊誌の発行など、2024年度も人形劇のまち飯田ではさまざまなプログラムが計画されています。予定に入れてご参加ください。

10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月

- 黒田人形浄瑠璃奉納公演
4月6日(土)7日(日)
下黒田諏訪神社春季例祭「無料」
外題／寿三番叟 鎌倉三代記 三浦別れの段ほか
- 人形劇定期公演
4月14日(日)13時30分開演 飯田人形劇場
出演／くまごや二座、人形芝居燕組
- りんニアートプロジェクト展
4月15日(月)～5月17日(金) 飯田信金本店
「丘のりんご」で過ごす仲間たちが日常生活の中で創り出したアートの展示
- 川本人形美術館 企画展
人形衣裳展 川本喜八郎の平家物語
4月27日(土)～7月15日(祝月)
川本人形美術館 3Fスタジオ
- 季刊情報誌「Dogushi」春号発行
4月上旬
- 人形劇講座初級コース
世界の民話を題材に作品を製作して成果発表
期間／5月中旬～10月13日(日)
- 人形劇定期公演
5月11日(土)19時開演 飯田人形劇場
出演／シアター 奇望堂「田辺」
- うごご「あおむしパペットワークショップ」
5月25日(土)14時30分ほごり
- 人形劇短期講座
5月26日(日)10時～11時30分 飯田文化会館
はばたくマリネットをつくらう
- 人形劇の相談所
6月4日(火)11日(火)18日(火) 飯田文化会館
人形劇製作のためのよろず相談所「無料」
- 人形劇+音楽のミニライブ
6月22日(土)10時30分ほごり
- 森のかみしばい劇場
7月6日(土) かざこし子どもの森公園
飯田下伊那の紙芝居グループによるジョイント公演
- モンスターパーベットワークショップ
7月13日(土)10時30分13時30分ほごり
- いいた人形劇フェスタ「プレフェスタ」
7月19日(金)20日(土) 飯田市内各所
- 季刊情報誌「Dogushi」夏号発行
7月下旬
- いいた人形劇フェスタ2024
8月1日(木)～4日(日) 飯田市内全域
- 川本人形美術館「こども写生大会」
8月7日(水) 川本人形美術館「無料」
8月下旬から参加作品すべてを美術館内に展示
- 川本人形美術館 川本喜八郎追悼企画
8月18日(日) 川本人形美術館2F映像ホール
長編人形アニメーション「死者の書」上映「無料」
- ほごりシアター
9月14日(土)19時ほごり
人形劇団京芸「おさん茂右衛門語り草」映像観賞
- 人形劇定期公演
9月15日(日)10時30分開演 飯田人形劇場
- 川本人形美術館 企画展
9月～11月 川本人形美術館3Fスタジオ
- ダンボールしまいワークショップ
10月6日(日)19日(土)20日(日)
川本人形美術館エントランス前
ダンボールで獅子頭をつくり、舞を練習発表



©桜映画社 / 川本プロダクション

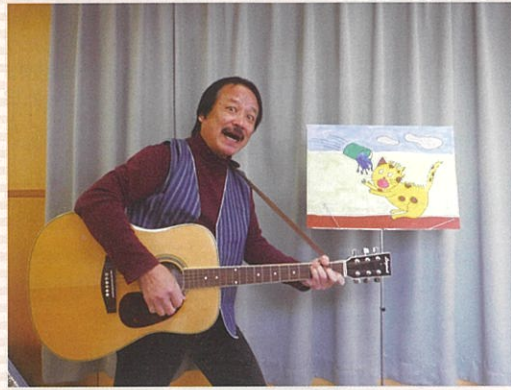
3月 2月 2025年1月 12月 11月 10月

- 今田人形奉納公演
10月12日(土)13日(日) 今田人形の館「無料」
- 人形劇定期公演
10月13日(日)10時30分開演 飯田人形劇場
- 人形劇短期講座
10月11月下旬 飯田文化会館
張り子でお面をつくらう(全2回)
10月下旬
- 季刊情報誌「Dogushi」秋号発行
- 人形劇 in 丘のまちフェスティバル
11月3日(祝日) 川本人形美術館
人形劇三国志イベント
- 人形劇+音楽のミニライブ
11月9日(土)14時30分ほごり
- せかいの劇場 vol.9
11月29日(金)30日(土) 飯田人形劇場
出演／ナイフ人形劇場こいぬと機関車 CHOO.
CHOOHISLEWOOD(チエ)
- 森のぼかぼかクリスマス
12月1日(日) かざこし子どもの森公園
人形劇公演、クリスマスリースづくりなどが楽しめる
ファミリー向け企画
出演／よろず劇場とんがらし
- ほごりシアター
12月14日(土)14時30分ほごり
人形劇団むすび座「トクベエ鬼ヶ島と呼ばれた島」
映像観賞
- 人形劇定期公演
12月15日(日)10時30分開演 飯田人形劇場
- ましゅ&Keiのクリスマス会
12月21日(土)22日(日) 飯田人形劇場
ましゅ&Keiがゲストとともに繰り広げるスペシャル企画
- 川本人形美術館 第31回常設展示
1月2日(木)～2026年1月(予定)
川本人形美術館3Fギャラリー
- 初春を寿ぐ竹田人形館
1月5日(日) 竹田人形館
出演／ひとみ座乙女文楽
- 人形劇定期公演
1月19日(日)10時30分開演 飯田人形劇場
- ほごりシアター
1月25日(土)14時30分ほごり
人形劇団アーク「現代版インソブ 約束 映像観賞」
- 季刊情報誌「Dogushi」冬号発行
1月下旬
- 人形劇+音楽のミニライブ
2月8日(土)14時30分ほごり
- いいた人形劇まつり「りんごっこ劇場」
2月中旬
市民劇団が企画・運営する人形劇まつり
- 保育士人形劇研修会
2月中旬
飯田市公立保育園の保育士による上演
- 人形劇定期公演
2月23日(日)10時30分開演 飯田人形劇場
- ほごりシアター
3月8日(土)10時30分ほごり
人形劇団アーク「死神」映像観賞
- 人形劇定期公演
3月16日(日)10時30分開演 飯田人形劇場



ここが私の人形劇の本当の出発点

人形劇団やじろべえ 山本ちよび



私が飯田の人形劇フェスに参加して最初の感想は、「ここはプロ、アマの人形劇が一同に会して観られる。なんてすばらしいフェスなんだ！」という感じでした。その思いは今でも同じなのですが、プロの方々から意見やアドバイスをいっぱいもらい、自分が考えていた人形劇観「楽しく人形劇をして、た

第34回 飯田へ通ず すべての道は

私は子どもの仕事をしていたこともあり小さな人形劇場を作り、飯田をきつかけにプロの方々に公演に来ていただいたり、いろんな話を聞かせていただいたり、地方公演ツアーに周ったり、一緒に小旅行をしたり、ジョイント公演させていだいたり、いろんな人形劇活動をさせていだきました。それが今では私の心の宝物となっています。

そういう意味では飯田の人形劇フェスは私を成長させてくれた場所でもありますし、人形劇のターニングポイントの場所だと思っても過言でないと思います。

次号は「人形劇団ほっこり」の三浦みゆきさんです



1990年の人形劇カーニバル飯田での記念撮影。劇団メンバー、家族と一緒に(写真上段右から2人目が筆者)

だ観客を楽しませればよい」という上辺だけの甘い考えを反省させられ、人形劇をもう一度真剣に考えるきっかけになった場所でした。

人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり



タブレットで描いたアニメーションの原画

10月から始まったプロ劇団の公演を映像で鑑賞する「ほっこりシアター」は3月9日(土)で5回目の上映が終了しました。和室内にある大きなスクリーンは迫力もあって、観劇した方の反応もよかったです。アンケートによるライブの人形劇の興味にもつながったようです。次年度も予定をしていますので、ぜひ遊びに来てください。

協働活動では、松川町のHugsに動画制作に6回行きました。タブレットを使って基本的な操作を学んで自由に作品づくりをしました。コマ撮りを作る生徒がいたり、イラストが得意な生徒は自分で描いたキャラクターをアニメーションにしました。現代の子どもは映像に慣れているため、少し説明をしてやり方さえ分かれば、あとは自分たち



リラックスして公演を楽しんでいる様子(丘のりんご)

で進めていきます。作り方が分かったところで、最後にHugsの楽しかったことを動画にして、できた作品をつなげてプロモーションビデオを作りました。

また丘のりんごでは、3月2日(土)に上演に行きました。卒業シーズンということもあって獅子舞をしました。掛け合いのある作品では、子どもたちが積極的に参加してとても盛り上がりました。定期的に訪問していることもあって、始めた当初よりも反応が変わっていく様子が見られました。

新年度は「信州の特色ある学び」の寄付金を活用して、ミニライブとワークショップを再開します。どうぞ、お楽しみに！

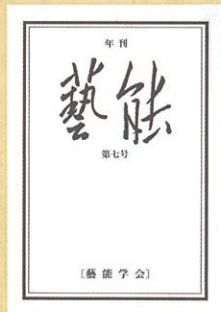
Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から④

年刊 藝能 第7号 「研究 沖縄の人形戯」 伊藤好英

『藝能』は藝能学会学会誌(7号は年刊となつてから)。藝能学会は折口信夫が提唱し1943年創設、伊那谷の人形芝居を知らしめた三隅治雄(前)に飯田出身の伊藤好英(現)と歴代会長は飯田とはうんと縁が深い。この研究論考は86-95頁に掲載。沖縄の代表的な伝統人形劇「チョンダラー(京太郎)」は傀儡師であり、仏まわしともいう、近代のある時期まで首里郊外の門付け芸人の村から島内を人形で遊行した集団があった。それを、折口信夫を始めとした1921年以降の記録、論考の流れを継いで、すでに消滅した「チョンダラー」を知り何かを学ぶに好適な内容で興味深い論考といえる。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



藝能学会2001年(通巻424号)

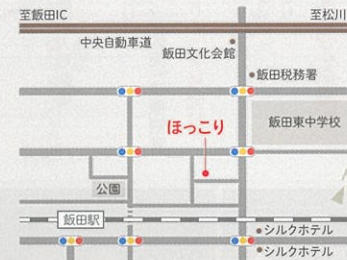
新年度の予定

5月25日±
ワークショップ

6月22日±
ミニライブ

7月13日±
ワークショップ

8月以降はP2・3のイベントカレンダーに掲載しています



お問合せ
NPO法人いっだ人形劇センター
☎050-3583-3594 担当:木田・後藤
hokkoripuppet@gmail.com



開所時間:第1・3木曜、第2・4土曜
14:00~17:00
料 金:100円。時間内は自由に入場できます
場 所:飯田市高羽町2-5-1
駐車場はお問合せください



参加者募集

2024年度 人形劇講座

人形美術、操演、演出などプロの指導が受けられます
会場は飯田文化会館・飯田人形劇場です

※参加費には基本の材料費が含まれますが、製作内容により別途材料費等を徴収する場合がございます

初級コース **申込締切** 5月7日(火)

世界の民話を題材に、人形づくりから上演までを体験

期間 1回目5月中旬オリエンテーション
2回目以降は参加者の都合にあわせて計画
成果発表は10月13日(日)を予定

対象 人形劇が初めての方、
人形劇の経験が少ない方

講師 吉澤亜由美、関島路乃、
くすのき燕

参加費 月1,000円



サポートコース **随時募集中**

新作づくり、既存作品のブラッシュアップを支援

期間 参加劇団の希望で実施
回数・時間帯は劇団の都合、製作内容により
変わります

対象 飯田市で創作活動が可能な団体または個人、数組

参加費 一人1回500円、新作づくり一人1回1,000円

短期講座 **申込締切** 5月21日(火)

はばたくマリオネットをつくろう
5月26日(日)10時~11時30分

対象 人形製作に興味のある方

講師 吉澤亜由美

参加費 2,000円

最少催行人数3人



今後の予定 10・11月「張り子でお面をつくろう」

ユースクラブ **随時募集中**

中学生から大学生のための人形劇クラブ。
中学校の人形劇部出身の新高校生、大歓迎!

期間 通年(週1回程度)

対象 中学生、高校生、大学生

参加費 月500円

お問合せ・申込み:NPO法人いいた人形劇センター ☎050-3583-3594



昨年9月に開催したワークショップ
「人形劇の人形造形の基本」

の大橋さん、人形劇団ひとみ座代表の中村さん、進行の友松が登壇して、自分が向上したい!と刺激を受けたエピソードを具体的に話し合いました。
これらの動画は編集して、4月に当協会ホームページで公開予定です。今後もプロ人形劇人が、元気に人形劇の仕事に取組み続けるために、様々な働きかけを計画します。
昨年10月に協会で開いた「猿倉人形芝居」の記録映画の鑑賞会に、人間国宝の桐竹勘十郎さんが参加してくださり、成長し続けるために大切なこととは?と尋ねる機会がありました。お答えは、「好き」の度合いを下げないことでした。

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota



ダコタ・ミドウ 2022年5月に仏シャルルヴィル・メジエールから飯田へ。飯田文化会館で通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田での生活の中で見たこと、感じたこと、人との出会いなどを綴ります。

日本の細工体験

こんにちは皆さん!

今日は12月に経験したことをシェアしたいと思います。私は日本の文化に興味があるのと手作りが好きですから、日本の細工は特に興味があります。本当に細工は細かくて素敵です。前には一回水引作りを体験しました。普段から手作りで物を作っていますが難しかったです。でもできた時にはすごく満足しました。

今回はつまみ細工を体験しました。日本に来てから浴衣を買いましたから、一緒につけられる可愛いアクセサリーが欲しかったです。特に日本の細工のアクセサリーが欲しくて、旅行中に組紐とつまみ細工のアクセサリーを買いました。そのつまみ細工のクリップをつけていたら、友達がそれに気づいてつまみ細工を作る体験教室に誘ってくれました。だから2人で橋南公民館のつまみ細工教室へ行きました。

すごく楽しくて面白かったです。先生は本当に上手でした。

こんな伝統細工を作り続けていくのは大切だと思います。



教室で作ったつまみ細工

劇人協会通信 映像と人形・ 人形劇 **その15**

日本人形劇人協会
理事長
友松 正人

日本人形劇人協会
舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に係わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。

人形劇人協会は、人形劇の技術を言語化する試みを続けています。2023年度は2つのワークショップを開きました。

9月には、「人形劇の人形造形の基本」。講師はスタジオリニアの松山さん、小池さん。二回にわたってのワークショップで、二回目は「操作人形の基本構造」、舞台の人形とTVの人形の共通点や違いを解説し、「うなずき」「からくり」の模型を作りました。二回目では映像現場の紹介と、接着剤と素材、そして3Dプリンターの話など、マニアックな内容でしたが大変好評でした。

11月には、中堅向けワークショップとしての座談会を、「成長し続けるために!」と題して行いました。当協会前理事長の安藤さん、人形劇団ブーク

日本列島 人形劇祭の旅



第52回こども部門最優秀賞「じごくのらーめんや」
人形劇団フレンチトースト

札幌人形劇祭

札幌人形劇祭は、年1回の人形劇のお祭りとして、道内各地の人形劇団が参加するコンクール形式の人形劇の連続公演で、昨年52回目の開催を迎えました。アマチュア人形劇団が数多く活動する中で、作品の質的、技術的向上を目指し、札幌の人形劇文化の活性化を目指すものとしてスタートしました。プロの人形劇団や演劇関係者などを審査員に迎え、毎年子どもから大人まで15〜25劇団ほどが参加し作品の完成度を競い合います。



第52回大人部門(初心者)部 優秀賞
「どうするどうするあなのなか」
人形劇団5B0☆



表彰式&受賞記念公演

しかし、単に賞を目指すことよりも審査員からのアドバイスを受けることで、次の作品創りに活かしてもらうことが大きな目的です。近年はやまびこ座、こぐま座が取り組んでいる子どもを対象とした人材育成事業が充実してきたことにより子どもたちの劇団が増加。2012年より大人部門、こども部門に分けて開催するようになりました。人形劇の裾野を広げようと実施している札幌市内の児童会館の人形劇クラブや札幌近郊の砂川市で開催している人形劇活動などによって、やまびこ座やこぐま座以外を活動拠点とする劇団が増えてきたことも嬉しい特徴です。

長い歴史と伝統を踏まえた札幌人形劇祭は、札幌をはじめ北海道のアマチュア人形劇団にとってひとつの目標となり、新作の発表の場や作品を真剣に考える上での指針となり得る活動の場であり、アマチュア人形劇団の活動レベルの押し上げに多大な影響を与えてきたフェスティバルと言えるのではないだろうか。

DATA

第1回は1972年(昭和47年)。毎年11月に開催

会場:北海道札幌市こどもの劇場やまびこ座

※当初は札幌人形劇サークル協議会が主催となり、札幌市こども人形劇場こぐま座が建設される以前より開催されてきました。1976年(昭和51年)のこぐま座オープンに伴い「第5回」開催よりこぐま座に会場を移し、その後1988年(昭和63年)にやまびこ座がオープン。「第17回」開催よりやまびこ座が会場となり現在に至ります
問合せ:札幌市こどもの劇場やまびこ座 ☎011-723-5911

並木 さんぽ

本号より新連載がスタートしました。飯田市では毎年夏に国内最大規模といわれる人形劇祭が開催されていますが、「国内ではどうなのだろう?」。そんな疑問を解決します。日本各地の人形劇祭の様子や特徴など、現場から「ナマの声」を届けさせていただきます。

次号は2024年7月発行予定です。(帆)

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

人形劇の活動を支援してください 賛助会員募集!

NPO法人いいだ人形劇センターは、当センターの目的と活動にご理解・ご賛同いただき、活動を支援して下さる2024年度の賛助会員を募っています。賛助会員(個人・団体)にお申し込みいただけますと特典として、季刊情報誌「Dogushi」や公演・イベントなどのお知らせを随時お届けいたします。皆さまのご支援をお願いいたします。

年会費 賛助会員 1口2,000円

※正会員も募集しています5,000円
(企画提案、総会での議決権あり)

問合せ:いいだ人形劇センター
☎050-3583-3594